

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	分倍河原駅周辺整備事業			事務事業コード	40630500
概要	分倍河原駅周辺地区の整備に関する計画を作成し、事業を推進する。				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	都市整備部 地区整備課
	施策	63	駅周辺整備事業の計画的推進	事業類型	任意事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成29年度～	見直しの裁量
根拠法令等	都市計画法、府中市地域まちづくり条例				
市関連事業					
対象	鉄道事業者、駅利用者、市民				
実施の背景	府中駅周辺を中心市街地を補完する拠点であり、かつ重要な交通結節点である分倍河原駅周辺地区においては、市街地環境上の課題や交通環境上の課題を抱えており、その解決を市民から強く要望されている。				
事業目標	分倍河原駅周辺地区において、まちづくりと連携した交通施策を展開し、同地区のまちづくりを着実に遂行する。				
事業内容	分倍河原駅周辺地区を対象として策定した、府中市都市・地域交通戦略に掲げた施策を推進するとともに、同地区における用途地帯の見直しや地区計画の導入の検討など、土地利用も含めたまちづくりの基本計画の検討を行う。また、基本計画に基づくまちづくりの施策を推進する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容
▼分倍河原駅周辺地区において、都市と交通の総合的かつ戦略的な施策を示し、同地区のまちづくりを推進するため、都市・地域交通戦略を策定するとともに、分倍河原駅改良及び自由通路整備に向けた調査・測量及び事業性の検討を行った。	▼分倍河原駅周辺地区まちづくり提案が平成30年10月に分倍河原駅周辺地区まちづくり協議会から提案された。 ▼当該地区の事業を進めるため、鉄道事業者や東京都など関係機関と協議を行った。 ▼まちづくりのルール策定に向けて具体的な検討に取り組むため、平成31年3月に分倍河原駅北口周辺を対象にまちづくりに関するアンケート調査を実施した。	



新規・レベルアップ 継続 見直し 廃止 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
▼府中市都市・地域交通戦略に基づく、施策の推進 ▼分倍河原駅周辺地区まちづくり基本計画(案)の作成 ▼地区計画素案の検討・作成 ▼分倍河原駅の改良及び自由通路整備に向けた事業性の検討	▼分倍河原駅周辺のまちづくりを推進するため、地域住民及び商店街への周知や鉄道事業者及び関係機関等と協議・調整を図り、まちづくり基本計画(案)の作成及び地区計画素案の検討・作成を行う。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
▼分倍河原駅周辺地区まちづくり基本計画(案)の作成 ▼地区計画等検討会の運営(6回) ▼まちづくり協議会の運営支援(3回) ▼分倍河原駅の改良及び自由通路整備に向けた調査・検討 ▼分倍河原駅周辺の基盤整備計画の検討	▼分倍河原駅周辺のまちづくりを推進するため、地域住民及び商店街への周知や鉄道事業者及び関係機関等と協議・調整を行い、まちづくり基本計画の策定に向け、案の作成及びパブリックコメントを実施した。 ▼地区計画等検討会を開催し、まちづくりのルールの検討を行った。	



新規・レベルアップ 継続 見直し 廃止 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
▼府中市都市・地域交通戦略に基づく、施策の推進 ▼分倍河原駅周辺地区まちづくり基本計画の策定 ▼地区計画等検討会の運営及びまちづくり協議会の運営支援 ▼駅前広場整備に係る基本計画設計及び市道改良整備に係る現地測量等の実施	▼分倍河原駅周辺のまちづくりを推進するため、地域住民及び商店街への周知や鉄道事業者及び関係機関等と協議・調整を図り、まちづくり基本計画の策定、及びまちづくり誘導計画の検討を行う。

令和3年度における事業の位置付け		A	分倍河原駅周辺整備事業は、第6次府中市総合計画後期基本計画の重点プロジェクトに位置付けられ、事業化に向けて市内の連携を強化し、重点的に取り組む必要がある。今後、地域住民や事業者との協働により当該地区のまちづくりを実現するためには、取組みを拡大すべき事業である。
位置付け	理由		
A 重点化・拡大して継続		A	
B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能		
C 見直して継続	1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等	1 休止 2 廃止 3 完了		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがなされないため、特に指標の設定は行わない。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	25,680,000	69,360,000	115,671,000	61,750,000	0	0
国庫支出金	3,567,000	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	50,000,000	15,000,000	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	11,400,000	0	1,900,000	0	0
一般財源	22,113,000	57,960,000	65,671,000	44,850,000	0	0
予算現額	25,680,000	58,234,000	80,313,000	0	0	0
決算額	22,738,077	58,111,052	78,798,720	0	0	0
国庫支出金	2,300,000	0	0	0	0	0
都支出金	11,650,000	19,920,000	34,410,000	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	8,788,077	38,191,052	44,388,720	0	0	0
執行率	88.5%	99.8%	98.1%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.00	3.20	3.50			
職員人件費	0	25,164,886	28,111,843			
嘱託員数	0	0.5	0.5			
嘱託員人件費	0	1,562,943	1,545,462			
(間接経費)						
間接経費	0	1,711,376	528,583			
総コスト	22,738,077	86,550,257	108,984,607	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<p>▼分倍河原駅周辺地区において、都市と交通の総合的かつ戦略的な施策を示し、同地区のまちづくりを推進するため、都市・地域交通戦略を策定するとともに、分倍河原駅改良及び周辺整備に向けた都市基盤整備の検討及び調査・測量を行い、事業の推進を図ることができた。</p> <p>▼地域住民にまちづくりの状況を周知するため、まちづくりニュースを発行した。(12回)</p> <p>▼まちづくりのルール策定に向けて具体的な検討に取り組むため、平成31年3月に分倍河原駅北口周辺を対象にまちづくりに関するアンケート調査を実施し、その結果をまちづくりニュースにより地域住民へ周知を図った。また、令和元年度より地区計画等検討会を設置した。(6回開催)</p>
今後の課題・展開(未達成の課題・具体的な方策等)
<p>▼分倍河原駅周辺は、南武線及び京王線による地域の分断や駅北側の商業地及び駅前空間の課題がある。このため、地区の回遊性を高め、にぎわいのあるまちにするとともに、地域住民や駅利用者の利便性を向上するため、駅を中心とした都市基盤の整備を行う。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1062550	分倍河原駅周辺整備計画策定費	7,593,000	7,844,100	7,810,000
2	01	40	15	05	1087720	分倍河原駅周辺整備事業費 設計委託料	37,500,000	16,853,100	50,200,000
3	01	40	15	05	1087730	分倍河原駅周辺整備事業費 設計委託料 (債務負担行為解消分)	70,578,000	54,101,520	
4	01	40	15	05	1087740	分倍河原駅周辺整備事業費 建設工事費			3,740,000
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							115,671,000	78,798,720	61,750,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	多磨駅改良整備事業			事務事業コード	40630600
概要	多磨駅の橋上化及び自由通路の整備				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	都市整備部 地区整備課
	施策	63	駅周辺整備事業の計画的推進	事業類型	任意事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成29年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市鉄道駅整備事業補助金交付要綱				
市関連事業					
対象	鉄道事業者、駅利用者、市民				
実施の背景	鉄道施設のバリアフリー化及び多磨駅の改良整備に対する、市民からの要望があるため。また、多磨駅が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の自転車ロードレースの会場最寄り駅となったため。				
事業目標	駅舎の橋上化とあわせて、東西駅前広場をつなぐ自由通路を整備し、バリアフリー化した安全で快適な移動経路を整備する。				
事業内容	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や、駅東側での大規模商業施設の開業を見据え、多磨駅の駅舎改良及び自由通路整備を推進する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容
▼H29年3月に西武鉄道(株)と締結した「西武鉄道多摩川線多磨駅における自由通路整備及び鉄道施設改良に関する基本協定」に基づき、実施設計、埋蔵文化財発掘調査及び自由通路整備に伴う駅付帯施設の移転を実施した。	▼自由通路整備及び鉄道施設改良の本体工事の着手に向けて予定通り事業の推進を図ることができた。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
▼自由通路整備及び鉄道施設改良の本体工事に着手する。	▼2020年度中の供用開始に向けて工程どおり事業を進める。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▼H29年3月に西武鉄道(株)と締結した「西武鉄道多摩川線多磨駅における自由通路整備及び鉄道施設改良に関する基本協定」に基づき、実施設計、埋蔵文化財発掘調査、本体工事、自由通路整備に伴う駅付帯施設の撤去及び線路棒線化に伴う関連工事を実施した。	▼令和元年度東日本台風による大雨の影響で地下水水位が上昇したため、地下水対策を講じることとなり、工事の工程に遅れが生じたが、R2年中の供用開始に向けて事業の推進を図ることができた。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
▼自由通路及び橋上駅舎の供用開始に向け、引き続き本体工事を進める。供用開始後は、外構工事や既存構造物の撤去工事を行う。	▼R2年中の供用開始に向けて事業を進める。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	▼第6次府中市総合計画後期基本計画の重点プロジェクトであり、また、東京2020オリンピック・パラリンピックの会場最寄り駅として多くの駅利用者が見込まれるため、多磨駅の自由通路整備及び鉄道施設改良事業の推進を図る必要がある。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない		
2 見直しには法令等の改正が必須		
3 見直しの必要性はあるが時期尚早		
4 現状では見直しが不可能		
C 見直して継続	1	
1 見直し・縮小		
2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		
1 休止		
2 廃止		
3 完了		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
		計画値	補正值	-	-	-	-	
	-	実績	-	-	-	-		
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
		計画値	補正值	-	-	-	-	
	-	実績	-	-	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	8,950,000	258,925,000	1,141,985,000	1,510,175,000	0	0
国庫支出金	0	35,112,000	298,700,000	42,647,000	0	0
都支出金	0	14,364,000	106,225,000	468,379,000	0	0
市債	0	0	261,400,000	445,000,000	0	0
その他	0	165,000,000	435,600,000	501,600,000	0	0
一般財源	8,950,000	44,449,000	40,060,000	52,549,000	0	0
予算現額	10,100,000	258,245,000	598,555,000	0	0	0
決算額	8,705,818	246,664,237	556,358,859	0	0	0
国庫支出金	0	31,900,000	21,250,000	0	0	0
都支出金	4,290,000	25,340,000	227,014,000	0	0	0
市債	0	0	150,000,000	0	0	0
その他	0	159,700,000	84,600,000	0	0	0
一般財源	4,415,818	29,724,237	73,494,859	0	0	0
執行率	86.2%	95.5%	93.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.00	3.20	3.50			
職員人件費	0	25,164,886	28,111,843			
嘱託員数	0	0.5	0.5			
嘱託員人件費	0	1,562,943	1,545,462			
(間接経費)						
間接経費	0	1,711,374	528,583			
総コスト	8,705,818	275,103,440	586,544,746	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>▼H29年3月に西武鉄道(株)と「西武鉄道多摩川線多摩駅における自由通路整備及び鉄道施設改良に関する基本協定」を締結し、実施設計、埋蔵文化財発掘調査、本体工事、自由通路整備に伴う駅付帯施設の移設・撤去及び線路棒線化に伴う関連工事を着実に進めることができた。</p>
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>▼国や都の補助事業の活用により、必要な財源を確保しながら、西武鉄道(株)と連携・協力し、R2年中の供用開始に向けて着実に事業を進める。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1076100	負担金 鉄道駅整備事業費	13,150,000	0	
2	01	40	15	05	1076105	負担金 鉄道駅整備事業費 (債務負担行為解消分)	89,200,000	103,470,744	156,594,000
3	01	40	15	05	1077051	補助金 鉄道駅整備事業費	0	713,000	
4	01	40	15	05	1077055	補助金 鉄道駅整備事業費 (債務負担行為解消分)	383,300,000	96,054,510	316,176,000
5	01	40	15	05	1077060	補助金 鉄道駅整備事業費	8,158,000	1,881,000	2,080,000
6	01	40	15	05	1087506	多磨駅改良整備事業費 設計委託料	0	1,566,000	
7	01	40	15	05	1087545	多磨駅改良整備事業費 埋蔵文化財発掘調査委託料	23,440,000	6,305,189	6,780,000
8	01	40	15	05	1087560	多磨駅改良整備事業費 物件補償費	5,009,000	5,012,116	
9	01	40	15	05	1087570	多磨駅改良整備事業費 建設工事委託料			485,611,000
10	01	40	15	05	1087575	多磨駅改良整備事業費 建設工事委託料 (債務負担行為解消分)	616,788,000	338,661,300	542,934,000
11	01	40	15	05	1087590	多磨駅バリアフリー化整備事業費 建設工事費	2,940,000	2,695,000	
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							1,141,985,000	556,358,859	1,510,175,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	けやき並木周辺整備事業			事務事業コード	40640100
概要	けやき並木通りのモール化に向けた周辺道路及びけやき並木通りの整備				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	都市整備部 土木課
	施策	64	けやき並木と調和したまちづくりの推進	事業類型	任意事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成20年度～	見直しの裁量
根拠法令等	道路法、宮西町地区道路整備計画、国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木保護管理計画				
市関連事業	馬場大門ケヤキ並木保護対策事業				
対象	道路利用者				
実施の背景	馬場大門のケヤキ並木の植生や景観に配慮した周辺環境を創出するため、けやき並木通りのモール化を進める必要がある。また、けやき並木通りの石積がケヤキの良好な生育を阻害している。				
事業目標	けやき並木通りのモール化を進めるため、宮西町地区道路整備計画を推進する。また、国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木保護管理計画に基づき、ケヤキの根に影響する石積を撤去するためけやき並木通り植樹帯石積改修を実施する。				
事業内容	けやき並木通り植樹帯石積改修工事の実施 市道4-10号拡幅整備事業の推進 市道4-11号拡幅整備事業の推進 市道4-12号拡幅整備事業の推進 市道4-14号拡幅整備事業の推進 市道4-488号新設整備事業の推進 市道4-503号新設整備事業の推進				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▼けやき並木通り植樹帯石積改修工事を実施した ▼市道4-503号の道路事業用地において、埋蔵文化財発掘調査を実施した ▼市道4-10号、4-12号、4-14号、4-488号、4-503号については、用地取得に向けて交渉を継続しそのうち4-503号については用地取得ができた	▼けやき並木通り植樹帯石積改修工事及び埋蔵文化財発掘調査については計画通り事業を実施した ▼4-503号において用地取得が完了した	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
▼けやき並木通り植樹帯石積改修工事を行う ▼市道4-503号の道路事業用地において、埋蔵文化財発掘調査を行う ▼市道4-10号、4-12号、4-14号、4-488号については、用地取得に向けて交渉を継続する	▼けやき並木通り植樹帯石積改修工事を行うとともに、宮西町地区道路整備事業を進めていく	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▼けやき並木通り植樹帯石積改修工事 ▼けやき並木通り改良工事 (車道舗装)	▼けやきの良好な育成のため、改修及び改良工事を計画通り実施した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
▼けやき並木植栽帯改修工事 ▼市道4-503号新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 ▼市道4-503号新設工事 ▼市道4-10号、4-12号、4-14号、4-488号については、用地取得に向けて交渉を継続する。	▼引き続き、けやきの良好な育成のため、改修及び新設工事整備事業を進めていく。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	▼引き続き、けやきの良好な育成のため、改修及び新設工事整備事業を進めていく。 ▼整備可能な箇所から工事を行っていく。 ▼用地交渉は時間を要するため継続して行っていく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	23,100,000	30,600,000	169,559,000	51,398,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	3,935,000	0	0
市債	0	14,000,000	109,000,000	0	0	0
その他	0	0	41,000,000	0	0	0
一般財源	23,100,000	16,600,000	19,559,000	47,463,000	0	0
予算現額	20,694,000	27,165,000	164,434,000	0	0	0
決算額	20,693,880	26,386,079	160,903,600	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	13,000,000	103,000,000	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	20,693,880	13,386,079	57,903,600	0	0	0
執行率	100.0%	97.1%	97.9%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	2.20	1.40	1.40			
職員人件費	16,899,573	11,009,638	11,244,737			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	729,146	488,292	491,089			
総コスト	38,322,599	37,884,009	172,639,426	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<ul style="list-style-type: none"> ▼市道4-10号、市道4-14号、市道4-488号、市道4-503号の道路事業用地を取得した（財産活用課） ▼市道4-10号、市道4-11号、4-12号、市道4-14号の一部区間の拡幅整備を行った ▼ケヤキの良好な育成のため、植栽帯石積改修工事及びけやき並木通りの舗装改良工事を実施した。 ▼市道4-10号、市道4-11号、市道4-14号、市道4-488号、市道4-503号の区域変更（管理課） ▼市道4-10号、市道4-14号、市道4-488号、市道4-503号の建基法42条1項4号の指定（建築指導課）
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<ul style="list-style-type: none"> ▼新設・拡幅に伴う関係権利者の協力及び財源確保

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	10	15	1055750	けやき並木周辺整備事業費 埋蔵文化財発掘調査委託料	5,125,000	0	13,656,000
2	01	40	10	15	1055900	けやき並木周辺整備事業費 建設工事費	164,434,000	160,903,600	37,742,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							169,559,000	160,903,600	51,398,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	馬場大門ケヤキ並木保護対策事業			事務事業コード	40640200
概要	国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木の保護対策事業				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	文化スポーツ部 ふるさと文化財課
	施策	64	けやき並木と調和したまちづくりの推進	事業類型	法定事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成11年度～	見直しの裁量
根拠法令等	文化財保護法、東京都文化財保護条例、府中市文化財の保存及び活用に関する条例				
市関連事業	けやき並木周辺整備事業				
対象	国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木				
実施の背景	市のシンボルでもある国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木が衰退しているため、その保護に必要な対策を検討し、実施している。				
事業目標	本市のシンボルであるケヤキ並木が、将来にわたって、いつまでも健全な状態で保護され、府中市のシンボルとしてふさわしい景観を保全する。				
事業内容	平成20年2月に策定した保護管理計画に基づき、ケヤキ並木の保護対策を実施するため、毎年春・秋2回の全樹木の巡回調査とそれに基づく対策の策定と他課への指導をする。また、全樹木に管理用の樹名板の設置、全樹木の樹高、胸高周囲を記録し成長、衰退度合いを数値化するなどの対応をとる。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
春と秋の巡回監視を実施し、密度管理や保護管理の面から伐採の対象となる木については、緊急性を考慮しながら、関係課と連携して対応した。また補植に必要な木を現地のケヤキの種から育成するため、都立農業高校に協力していただき、ケヤキの種収集や育成を行った。	巡回監視を実施しながら、古木以外の次世代木の保護管理を行った。また、補植に必要な木を現地のケヤキの種から育成することを目指し、都立農業高校に協力していただき、試行的な取組を行った。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
例年同様、春と秋の巡回監視を実施し、密度管理や保護管理の面から伐採の対象となる木については、緊急性を考慮しながら、関係課と連携して対応する。また、これまで実施してきた樹木の伐採などによって空間があり、補植に必要な木を現地のケヤキの種から育成することを目指し、都立農業高校に協力していただき、ケヤキの種収集や育成を試験的な取組を実施していく。	巡回監視を実施しながら、古木以外の次世代木の保護管理を行っていく。また、補植に必要な木を現地のケヤキの種から育成することを目指し、都立農業高校に協力していただき、試行的な取組を行う。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
春と秋の巡回監視を実施し、密度管理や保護管理の面から伐採の対象となる木については、緊急性を考慮しながら、関係課と連携して対応した。また、補植に必要な木を現地のケヤキの種から育成するため、都立農業高校に協力していただき、ケヤキの種収集や育成を行った。	巡回監視を実施しながら、古木以外の次世代木を多く、後世に伝えていけるように保護管理を行い、順調に生育してきている。また、補植に必要な木を現地のケヤキの種から育成することを目指し、都立農業高校に協力していただき、試行的な取組を行った結果、ケヤキの育成が進んできている。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
例年同様、春と秋の巡回監視を実施し、密度管理や保護管理の面から伐採の対象となる木については、緊急性を考慮しながら、関係課と連携して対応する。また、これまで実施してきた樹木の伐採などによって空間があり、補植に必要な木を現地のケヤキの種から育成することを目指し、都立農業高校に協力していただき、ケヤキの種収集や育成を試験的な取組を実施していく。	巡回監視を実施しながら、古木以外の次世代木の保護管理を行っていく。また、補植に必要な木を現地のケヤキの種から育成することを目指し、都立農業高校に協力していただき、試行的な取組を行う。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	今後とも引き続き、保護管理計画及び保護活用計画に基づき、関係課と連携してケヤキ並木の保護管理を行っていく。また、これまで実施してきた樹木伐採などによって空間地があり、補植に必要な木を現地のケヤキの種から育成するケヤキの種収集や育成を目指し、都立農業高校に協力していただきながら取り組んでいきたい。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない		
2 見直しには法令等の改正が必須		
3 見直しの必要性はあるが時期尚早		
4 現状では見直しが不可能		
C 見直して継続	1	
1 見直し・縮小		
2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		
1 休止		
2 廃止		
3 完了		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
次世代に古木となるけやき 後継樹の本数	130	計画 当初値	130	130	140	150	次世代に古木となるけやき後継樹の本数は、木の管理を進めた結果、本数が少なくなったため、現在古木から採取した種から生育する試行的な取組を進めている。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	本 実績	130	128	-	-	-	
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	- 実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	1
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	3,344,000	10,448,000	3,328,000	3,151,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	3,344,000	10,448,000	3,328,000	3,151,000	0	0
予算現額	3,344,000	8,898,000	3,328,000	0	0	0
決算額	3,322,080	8,862,480	3,293,680	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	3,322,080	8,862,480	3,293,680	0	0	0
執行率	99.3%	99.6%	99.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.65	0.65	0.50			
職員人件費	4,993,056	5,111,618	4,015,978			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	22,774	58,521	71,131			
総コスト	8,337,910	14,032,619	7,380,789	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
国指定天然記念物である馬場大門のケヤキ並木保護対策事業は、平成20年2月の保護管理計画策定以後、その計画に基づいた保護対策を実施してきた。平成20年度以降の保護対策業務では、枯死木の伐採、危険木の対応、並木全体の現状確認と樹木診断、土壌硬化度の測定や土壌水分計による調査、伐採した樹木の年輪の年代確認と保存等を行った。また、けやき並木通りの開発事業に対するケヤキ並木の保護に関する行政指導を実施した。平成27年度には、ケヤキ並木全体の緊急危険度診断を行い、その結果を受け、平成28年度に関係課に協力を仰ぎ、枯れ枝の除去や危険木の伐採等を実施した。平成29年度には、保護管理計画の見直しを行い、補植に向けた準備として、都立農業高校に協力いただき、ケヤキの種の収集、苗木の育成という試行的な取組を行った。平成30年度は、2つの台風の被害により、古木を含む3本のケヤキを伐採した。令和元年度は、不要木のイヌシデ1本が枯れたため、伐採した。また、台風被害により古木の太枝が折れた。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<ul style="list-style-type: none"> けやき並木通りに中高層建築物が建設される中で、いかにケヤキ並木を将来的に保護していくか、更には、国天然記念物指定地内における樹木の保護対策に加えて、周辺建築物に対する保護対策の強化が課題である。 国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木は、国内唯一の国指定のケヤキ並木で、府中のみならず日本国民にとっても貴重な文化財である。東京の市街地にあるケヤキ並木を、いかに将来にわたって保護していくか、土地所有者、沿道の住民や事業者と協働で、積極的に取り組んでいくことが肝要と考えている。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	10	1528100	馬場大門ケヤキ並木保護対策事業費	3,328,000	3,293,680	3,151,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							3,328,000	3,293,680	3,151,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	けやき並木通り車両交通規制事業			事務事業コード	40640300
概要	けやき並木の歩行者専用道路化に付随する試験的な車両交通規制の実施				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	生活環境部 地域安全対策課
	施策	64	けやき並木と調和したまちづくりの推進	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成22年度～	見直しの裁量
根拠法令等					
市関連事業	けやき並木周辺整備事業				
対象	市民及び府中駅周辺の買い物客等				
実施の背景	市民の安全な歩行空間の確保と、けやき並木と調和した魅力あるまちづくりの推進及びけやき並木の将来にわたる保護・保存を目標とする「けやき並木歩行者専用道路化」の試験的事業として、けやき並木通りの車両交通規制が求められた。				
事業目標	けやき並木通り車両交通規制の実施により、安全な歩行空間が確保され快適な空間となることで、多くの人が集い・憩い、けやき並木通り周辺ににぎわいが生まれます。				
事業内容	歩行者の安全確保と車両の誘導を行うことを目的とした警備業務の委託（平成30年度現在：日曜日及び祝・休日に実施）。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽けやき並木通りの車両通行規制の実施 ・規制日時 毎週日曜日及び祝・休日の12時～18時 ・規制区間 けやき並木通りの国際通り入口先から大國魂神社前交差点までの間	けやき並木通りの車両通行規制を通常通り実施することができた。けやき並木通りを使用したイベント開催の際、イレギュラーな対応にも委託業者との連絡を密に取ることで、イベントや規制が滞りなく実施されるよう努めた。また、年2回の交通量調査を実施し、けやき並木通りにおける交通量の把握に努めた。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
▽けやき並木通りの車両通行規制の実施 ・規制日時 毎週日曜日及び祝・休日の12時～18時 ・規制区間 けやき並木通りの国際通り入口先から大國魂神社前交差点までの間	車両通行規制の周知に努め、けやき並木通りの活用に合わせた有効な車両通行規制を実施する。今後も委託業者との関係を密にし、通常の車両通行規制やけやき並木通りで開催されるイベント等に支障がでないよう努めていく。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽けやき並木通りの車両通行規制の実施 ・規制日時 毎週日曜日及び祝・休日の12時～18時 ・規制区間 けやき並木通りの国際通り入口先から大國魂神社前交差点までの間	けやき並木通りの車両通行規制を通常通り実施することができた。けやき並木通りを使用したイベント開催の際、イレギュラーな対応にも委託業者との連絡を密に取ることで、イベントや規制が滞りなく実施されるよう努めた。また、年2回の交通量調査を実施し、けやき並木通りにおける交通量の把握に努めた。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
▽けやき並木通りの車両通行規制の実施 ・規制日時 毎週日曜日及び祝・休日の12時～18時 ・規制区間 けやき並木通りの国際通り入口先から大國魂神社前交差点までの間	車両通行規制の周知に努め、けやき並木通りの活用に合わせた有効な車両通行規制を実施する。けやき並木通りで開催されるイベントが行われる際は、情報収集を行い、委託業者とも調整しながら、適正な交通規制となるように努めていく。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	今後もまちづくりの方向性が定まるまで継続していく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移					目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度		
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績	実績	-	-	-	-	
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要性は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	4,512,000	4,578,000	4,998,000	5,106,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	4,512,000	4,578,000	4,998,000	5,106,000	0	0
予算現額	4,512,000	4,578,000	4,998,000	0	0	0
決算額	4,059,937	3,854,953	4,238,095	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	4,059,937	3,854,953	4,238,095	0	0	0
執行率	90.0%	84.2%	84.8%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.40	0.60	0.60			
職員人件費	3,072,650	4,718,416	4,819,173			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	34,432	72,822	63,519			
総コスト	7,167,019	8,646,191	9,120,787	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<p>規制区間の延伸について、近隣住民の理解も得られたことから、平成26年6月1日（日）より延伸規制を開始し、交通規制箇所での歩行者の安全確保及び車両誘導を行った。</p> <p>また委託業者に月に1回業務報告書の作成を依頼し、提出してもらうことで、現場状況の把握に努めた。</p> <p>委託業者との連携を密にし、通常の車両交通規制やけやき並木通りで開催されるイベント等に支障のないよう努めた。</p>
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<p>車両交通規制の周知徹底を図るとともに、将来的には、交通規制の日時の拡大も視野に入れながら、「けやき並木歩行者専用道路化」の試験的事業の一つとして、けやき並木と調和した魅力あるまちづくりの一端を担う効果的な車両交通規制を検討していく。</p> <p>今後も連携を密にし、トラブル等発生した際には早急に対策が取れる体制を整えていく。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	10	05	40	0167500	けやき並木通り車両交通規制事業費	4,998,000	4,238,095	5,106,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							4,998,000	4,238,095	5,106,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	中心市街地活性化基本計画推進事業			事務事業コード	40640400
概要	中心市街地活性化事業				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	生活環境部 経済観光課
	施策	64	けやき並木と調和したまちづくりの推進	事業類型	任意事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成27年度～	見直しの裁量
根拠法令等	中心市街地の活性化に関する法律				
市関連事業					
対象	府中駅周辺地区				
実施の背景	府中駅周辺において、エリアマネジメントの取組等を行い、地域の活性化を後押しする必要がある。				
事業目標	中心市街地活性化基本計画に掲げる指標の達成に向け、一般社団法人まちづくり府中と連携しながら、中心市街地の活性化を図り、市内全域への波及を目指す。				
事業内容	<p>中心市街地活性化基本計画に掲げる指標（大規模商業施設の年間販売額、東京競馬場タイアップ年間利用組数、公共施設年間利用者数）を達成すべく、次の事業を実施する。</p> <p>▼中心市街地にぎわい創出事業（東京競馬場タイアップ事業、竹あかりおもてなしライトアップ、けやき並木を活用したにぎわい創出事業（マルシェ）等）</p> <p>また、指標の達成状況の把握、及び内閣府への定期フォローアップ報告を行うべく、次の事業を実施する。</p> <p>▼中心市街地活性化基本計画推進事業（歩行者交通量調査、空き店舗調査、内閣府への定期フォローアップ報告）</p>				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
<ul style="list-style-type: none"> 歩行者交通量調査（26,232人）、空き店舗調査（54店舗）等を行った。 東京競馬場タイアップ事業を実施し、2,236組の利用があった。 竹あかりライトアップ事業を2回実施した。 キテキテ府中マルシェを2回に開催した。 ラグビーワールドカップ2019までのカウントダウンモニュメント及びワンハンドフードレシピコンテストを実施した。 	歩行者交通量は、前年度比より増加した一方で、空き店舗数は増加、東京競馬場タイアップ利用組数は減少に転じ、課題が残った。竹あかりライトアップ事業やキテキテ府中マルシェについては、けやき並木周辺におけるにぎわいの創出に寄与し、カウントダウンモニュメントのお披露目及びワンハンドフードレシピコンテストについては、府中駅北口周辺における回遊性の創出に寄与した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
<ul style="list-style-type: none"> 定期フォローアップ調査の実施 東京競馬場タイアップ事業、竹あかりライトアップ事業、キテキテ府中マルシェの実施 カウントダウンモニュメントの維持管理 ラグビーワールドカップ2019の開催期間中におけるにぎわい創出事業の検討及び実施 	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地活性化基本計画の指標調査を実施する。 東京競馬場タイアップ事業、竹あかりライトアップ事業、キテキテ府中マルシェを実施し、中心市街地のにぎわいを創出する。 ラグビーワールドカップ2019開催期間中に実施されるパブリックビューイングに合わせ、本市をキャンプ地とするフランス、イングランドにちなんだミニマルシェ（仮称）を実施する。 	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> 歩行者交通量調査（28,330人）、空き店舗調査（48店舗）等を行った。 東京競馬場タイアップ事業を実施し、4,149組の利用があった。 竹あかりライトアップ事業を実施した。 キテキテ府中マルシェを2回開催した。 ラグビーワールドカップ2019の開催に伴い、「府中ストリートバル」を実施した。 	歩行者交通量は、前年度比より増加し、空き店舗数は減少している。東京競馬場タイアップ利用組数も増加に転じていることから回遊性の向上につながっている。また、ラグビーワールドカップ2019の開催に伴い、けやき並木通りで実施されたラグビーウィークなどにおいて、飲食ブースやステージイベント等を組み合わせた「府中ストリートバル」を実施したことにより、中心市街地のにぎわいの創出に寄与した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> 定期フォローアップ調査の実施 東京競馬場タイアップ事業、竹あかりライトアップ事業、キテキテ府中マルシェの実施 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成イベント等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地活性化基本計画の指標調査を実施する。 東京競馬場タイアップ事業、竹あかりライトアップ事業、キテキテ府中マルシェを実施し、中心市街地のにぎわいを創出する。 動向を注視しながら、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成イベント等を実施する。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	令和2年度に予定されていた東京2020オリンピック・パラリンピックが延期となったが、今後の動向を注視しながら本大会にちなんだ、にぎわいの創出に係る事業を実施する必要がある。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	また、令和元年9月に閉店した伊勢丹府中店や新型コロナウイルス感染症による影響により、中心市街地の活性化が減退することが予想されるため、収束後の活性化について、検討する必要がある。

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
			H30年度	H31年度	R 2年度		
休日のけやき並木の歩行者 交通量	25,500	計画 当初値	22,000	22,000	22,000	22,000	現時点では、基準値が目標値を上回る結果となっているが、令和元年9月末をもって伊勢丹府中店が営業を終了する影響を最小限に抑え、目標の達成を目指す。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	26,232	28,330	-	-	-	
-	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
-	-	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	19,485,000	20,304,000	59,487,000	46,644,000	0	0
国庫支出金	3,497,000	7,036,000	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	19,800,000	12,100,000	0	0
一般財源	15,988,000	13,268,000	39,687,000	34,544,000	0	0
予算現額	28,209,000	30,284,000	59,487,000	0	0	0
決算額	28,208,320	30,281,860	50,109,500	0	0	0
国庫支出金	3,493,800	7,036,200	0	0	0	0
都支出金	1,200,000	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	19,700,000	0	0	0
一般財源	23,514,520	23,245,660	30,409,500	0	0	0
執行率	100.0%	100.0%	84.2%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.15	0.00	0.60			
職員人件費	8,833,868	0	4,819,173			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	1,857,848	0	372,206			
総コスト	38,900,036	30,281,860	55,300,879	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
定期フォローアップ調査について、歩行者交通量は、平成29年度よりもさらに増加し、中心市街地活性化基本計画に基づく取り組みの成果が見られる一方、空き店舗数については増加、東京競馬場タイアップ事業利用組数は減少に転じるなど課題が残った。竹あかりおもてなしライトアップ事業については、多くの市民から好評をいただいております。製作にご協力いただく市民ボランティアも増加傾向にある。3月21日には、ラグビーワールドカップ2019が開幕となる9月20日までのカウントダウンを行うモニュメントのお披露目を兼ねた式典と「武蔵府中ワンハンドフードレシコンテスト」の試食審査及び表彰式を実施し、グルメ部門とスイーツ・ドリンク部門のグランプリ等が選定された。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
一般社団法人まちづくり府中が設立されたことにより、中心市街地の活性化に向けたソフト事業が充実されてきているものの、まちづくり会社の確たる収益が見込めないことから、市からの委託事業が大半を占めている。今後は、未利用市有地の効果的な活用を始め、まちづくり会社の収益事業確立に向け、必要な支援を行い、中心市街地の活性化及び市全域への波及を目指す。 なお、令和元年9月に閉店した伊勢丹府中店や新型コロナウイルス感染症による影響により、中心市街地の活性化が減退することが予想されるため、収束後の活性化について、検討する必要がある。

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	35	05	05	0934700	中心市街地にぎわい創出事業費	53,258,000	43,884,500	34,700,000
2	01	35	05	05	0934800	負担金 まちづくり府中	10,000	10,000	10,000
3	01	35	05	05	0934950	中心市街地活性化事業用地整備事業費 外構工事費			5,600,000
4	01	40	15	05	1058010	中心市街地活性化基本計画推進事業費	6,219,000	6,215,000	6,334,000
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							59,487,000	50,109,500	46,644,000